

## 校内研修

臨時休業期間中の5月20日（水）・21日（木）の2日間にかけて、本校ではコーチングの専門家を招聘し、研修会を開催しました。ワークショップ形式でコーチングについて学びました。新型コロナウイルス感染症対策で、いわゆる3密を避けるため、体育館でマスク着用の上、お互いの距離を取りながらという異例の形での研修会となりました。

講義・ペアワークでのロールプレイ・グループディスカッション等を通じて、1日目はコーチングの基盤となる考え方や「傾聴」「承認」「効果的な質問」「アサーティブネス」等のコーチングコミュニケーションの基本スキルを学びました。

2日目はさらに「ラショナルビリーフ・イラショナルビリーフ」「影響範囲内と影響範囲外」「コーチングとティーチングの使い分け」等、より専門的な内容を様々な視点から考察し、種々のワークを通じてコーチングとコーチの在り方や意義を深く突き詰めながら、全員が実際のコーチングセッションを行い、より根本的かつ実践的な内容を学びました。

終了後のアンケートでは、以下のとおり様々な感想が出されました。

「教員として必要なことばかりだった」

「相手の話を聞くことによって、自分にもゆとりができて、自己観察ができるようになりました」

「生徒や自分の子どもに対し、自分の方から一方的に話したり、決めつけたりしてしまうことが多かったのですが、今後は指導の仕方が変わると思います。ありがとうございました。」

「本当に困っている人は、相手の言葉や姿勢で心が大きく変化する。今回の研修は大変参考になりました。」

「とても役立ちそうです。発問（問いかけ）次第で、相手の内的な変化や気づきにつなげることができそうだと実感できたから。」

「学校現場だけでなく、プライベートでも役に立ちそうだと感じました。」

「自分を客観視する機会になりました。」

「コーチングは相手を導くスキルだと思っていましたが、自己分析や自分の気持ちを常に安定させるなど、自分の内面と向き合う作業が多くあったのが気づきでした。」

「教員の仕事で活かせるというか活かしていかないといけないスキルをわかりやすく教えていただきました」

「自分磨きになると感じました。」

例年どおりの教育活動ができない、いったい、いつになったら授業が再開できるのだろうかという、いかんともしがたい閉塞感？の中、大変有意義な研修会になりました。

私たち教職員は、感染症対策の徹底という制約の中でも様々な工夫を凝らしながら、生徒が自ら問題を解決できるように、また、生徒が自分の目標を見付け、それに向かって上手に歩めるよう支援し、関わっていこうと思います。



